GOVERNOR'S
MONTHLY　LETTER

2016-2017 Rotary International District 2560

国際ロータリー第 2560 地区 2016-2017 年度

ガバナー月信
2017.03.01　Vol.9

CONTENTS

ガバナーメッセージ	1
米山記念奨学委員長セミナー　報告	2
派遣学生オリエンテーション　報告	3
R 財団セミナー・補助金管理セミナー　報告	4
新入会員紹介	5
会員数および出席報告	6
コーディネーターNEWS	7
ハイライトよねやま	8
米山梅吉記念館便り・ロータリー文庫通信	10

2016-17 年度　ガバナー　田中　政春

田中ガバナー事務所　〒940-2108　長岡市千秋 1-253-3　ベルダンビル 1F

TEL：0258-86-6236　FAX：0258-86-7068　E-mail：m.tanaka@rid2560niigata.jp

きざし

国際ロータリー第２５６０地区
2016 - 17 年度　ガバナー
田中　政春（長岡西 RC）

厳しかった寒さも次第に緩みはじめ、三寒四温を繰り返しながら春へと向かう季節となりました。弥生、三月を迎え、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

弥生（やよい）という言葉は、「草木がいよいよ生い茂る月」という意味の「木草（きくさ）弥（い）や生（お）ひ茂る月」が「やよい」となったそうです。弥生という言葉から新たな命の息吹と「きっといいことがいっぱい始まる」気配を感じます。

さて、今年度も残すところ 4 ヶ月を切り、地区目標の達成度合いを確認し、特に会員増強の地区目標「前年度末の 3%以上純増」の目標の高さをあらためて感じています。今年 1 月末現在の当地区の会員数は 2,132 名、純増 35 名、約 1.6%増となっています。会員増強の重要性については、皆さまも十分認識され、問題意識を持って各クラブで独自の取組みや活動をされていると思います。是非、今一度、クラブにおける職業分類や年齢構成などの現状を把握し、そして、入会候補の方々に、職業奉仕を中核とするロータリーの奉仕活動は、巡り巡っていずれは自分に還ってくるという奉仕活動の意義と、ロータリーは人生の宝となる素晴らしい出会いの場であることを伝え、もう一押し、お誘いの声を掛けていただきたいと思います。

春のきざしを感じる今、「萌し（きざし）」と「兆し（きざし）」、という言葉があります。草木の芽吹きのように目に見える変化を「萌し」と言い、春分が近づくにつれて昼の時間が少しずつ長くなり、着実に春に向かっていくような移ろいゆく変化、目に見えない変化を「兆し」と言うと、ある本に書かれていました。

ジョン F. ジャーム RI 会長が会員増強について、「単にロータリアンの数を増やすことではなく、ロータリーによる善き活動をより多く実現させ、将来にロータリーのリーダーとなれるロータリアンを増やすことです。」と述べています。ロータリーの本質や将来を見据え、まさに「萌し」にとらわれることなく、「兆し」を感じる行動の大切さがわかります。私自身も「萌し」に目を向けがちですが、「兆し」を感じるべく長期的な観点で地区目標の達成度合いを見極めたいと思います。

皆さま一人ひとりの行動から、きっといいことがいっぱい始まる「萌し」と、やる気のある輝いた志をもった新しい仲間が増えていく「兆し」を感じる春の訪れを楽しみにしています。季節の変わり目、皆様くれぐれもご自愛下さい。

第２回米山記念奨学委員会委員長セミナーに参加して

国際ロータリー第２５６０地区
米山記念奨学委員会
寄付増進委員　小林　素子（新潟東 RC）

この度の委員長セミナーには、米山記念奨学会事務局にいらっしゃる武本泰子さんからご講演を頂きました。

ご自身も海外留学をご経験されて得た熱い想いを語って下さいました。

思えば私がロータリークラブに入会したきっかけは、米山記念奨学会に感銘を受けたことに始まります。

7 年ほど前、当社に中国人女性が新卒で入社致しました。大変明るくて健康的な彼女がその場にいるだけで、辺りがパッと華やぐような女性でした。入社して 1 カ月程経った頃、その彼女の口から、米山記念奨学会？ロータリークラブ？といった聞き慣れない言葉が飛び出してきました。その時、初めてロータリークラブという団体があることも知りました。

無償で奨学金を提供するそんな崇高な団体があるのだろうか？と正直驚き、同時にそんな素晴らしい活動をしている団体なのに、我々庶民は何も知らない・・・・もっと多くの人がこの事実を知るべきではないだろうか？？？と強く感じました。

その元奨学生であるフロント社員がきっかけで、ロータリーと出会い、今こうして米山記念奨学会の委員をさせて頂いている事は非常に感慨深いです。

故米山梅吉氏が戦後の日本は世界に平和をアピールして生きて行くしかない、とお考えになり、その想いが海外との架け橋になる若者への奨学制度になった経緯を知るほど、その志を正しく受け継いでいかなければならないと感じます。

海外から日本に来られる勇気溢れる若者に、平和の国、日本を正しく理解してもらうためのお手本がロータリアンの諸先輩には沢山いらっしゃいます。奨学生に直接関わるのは、地区の委員よりクラブのロータリアンの皆さまですから、私は奨学生とロータリアンの架け橋になりたいと思います。奨学生にとって、ロータリアンに話しかけることは、海外に飛び出すより勇気のいることだそうですから。

２月開催派遣学生オリエンテーション

国際ロータリー第２５６０地区
青少年交換委員長　本間　啓介（村上 RC）

新年最初のオリエンテーションは、田中ガバナーと新保ガバナーエレクト、川瀬ガバナーノミニーに出席頂き 1 年交換と夏期交換のオリエンテーションを実施しました。

一年交換学生の参加者には韓国へ派遣予定の野口さん、ドイツに派遣予定の有田さん、カナダに派遣予定の米山さんとそれぞれの保護者、スポンサークラブに出席頂きこれからの準備についてや注意点を重点にお話しさせて頂きました。

夏期交換学生の参加者は、永野さん、野口さんの保護者、スポンサークラブに出席頂きまして書類を確認させていただき今後の注意事項と準備についてお話しました。

市川さんはインフルエンザのため残念ながら出席できませんでしたがスポンサークラブの高田東ロータリークラブの古川国際奉仕副委員長に資料と書類の CD をお渡しし連絡事項をお伝えいただくようにお願いしました。

危機管理に関する注意事項に「ロータリーの 4D ルール」についてお話いたしました。

「ロータリーの 4D ルール」を守ることは危険から自分を遠ざけることになり、安全に留学生活を過ごしてもらうためには守ってもらわなければならない大切なルールです。この「ロータリーの 4D ルール」は全世界のロータリー青少年交換の共通のルールとなっており万が一お酒などを進められたときには「ロータリーの 4D ルール」のことを話して断るように指導いたしました。

一年交換学生の皆さんには、パワーポイントを使った日本や新潟、自己紹介のプレゼンテーションの練習をしました。野口さんは、韓国に留学ということで韓国語を使ったプレゼンテーションをしてくれました。話している内容はわかりませんでしたが頑張って練習してきたことが伺えます。有田さんや米山さんも発表していただきました。それぞれに言えることはもっと練習が必要と感じました。

委員会の仕事としてはこれから出発する学生の安全を守り、来日してる学生の状況を把握し見護ることですが今回のオリエンテーションでその役目を十分に果たしていると感じました。今後とも青少年交換委員会の活動にご理解とご協力をお願いいたします。

財団セミナーに寄せて

国際ロータリー第２５６０地区
ロータリー財団委員長　佐々木　昌敏（小千谷 RC）

２月１８日（土）新潟万代シルバーホテルにて「第２回ロータリー財団セミナー・補助金管理セミナー」が行われました。

セッション第一部は各小委員長から地区補助金の活用についての説明及び事例発表を高田ロータリークラブからお願いし理解していただきました。続いて地区奨学生制度についての説明の後、奨学生の体験談発表を長岡ロータリークラブ推薦の山村　燿さんからイギリスサウサンプトン大学での留学された経験談を話して頂き皆様が感激されました。グローバル補助金の活用についての説明の後、事例発表を万代ロータリークラブからわかり易く発表して頂きました。続いて、寄付・資金の現状と次年度の目標を伝えてもらい、ポール・ハリス・ソサエティの発表をした後に、ポリオプラスについての説明がなされました。セッション第二部では資金管理ルールの説明を詳しくさせて頂きました。

当日は、ロータリアン参加者全員が真剣にセミナーを聞いて頂き途中退席もなく、大変白熱したセミナーになりガバナー及び委員長以下委員全員大変喜ばしく、また頭の下がる思いでした。

ここで、セミナーの纏めといたしまして、いくつか述べたいと思います。

１．ロータリーは、中核的価値観 ― 親睦、奉仕、高潔性、多様性、リーダーシップ― を基本的スタンスとして、人と資金を集め、奉仕活動を行い、世界平和構築に貢献しようとする団体であります。

２．従って、各クラブ会長さんは、人を集め（会員増強）、資金を集め（財団）、奉仕活動を行うことがお役目と云えます。資金をどのように集め、どのように使い、どのように手続きを行うのかを研修することが、本日の目的であります。

３．クラブ会長さんに最も関心の高い地区補助金について、その留意点を挙げると つぎのとおりです。

（１）地域ニーズに合った どのような奉仕活動に、汗を流すのか、その活動内容が原点であります。
奉仕活動にはお金がかかる、そのお金を補助するのが地区補助金の考え方であります。

（２）予算は地区 70%、クラブ 30%の割合で負担します。この 70%の部分が地区補助金であります。
全国的には 50%：50%くらいと思われますが、地区 30%、クラブ 70%の地区もあります。

（３）地区補助金は公的資金の性格を帯びますので、考え方には高潔性が求められ、使用手続きは厳格であります。クラブの利益、特定会員の利益を誘導しようとする考え方はﾁｪｯｸされることになります。

（４）本日の財団セミナーへの出席は、地区補助金使用の条件であります。

４．地域にとけ込み、地域ニーズを把え、地区補助金も使って奉仕活動に取り組む。その姿を地域の人々に認知してもらい、ロータリーを理解してもらい、新しい会員を迎え、クラブ活性化へと向う。この循環が重要であり、われわれの課題であろうと思われます。

以上ですが、これからも、ロータリーは世界に地域に良いことをするために今後も皆様の絶大なるご協力をお願い致します。

新入会員　紹介　（敬称略）

RC 名	お名前	入会日	会社名
水　　原	永松　健太郎	2017.01.11	今板温泉湯本館
新　潟　東	松岡　功太郎	2017.01.13	松岡功太郎法律事務所
新　潟　北	齋　藤　　潤	2017.01.16	新潟中央労務管理センター
新　潟　北	大　橋　　崇	2017.01.16	㈱大橋商会
三　　条	梨 本　次 郎	2017.01.18	株式会社 梨本商店
燕	浅 野　智 行	2017.02.15	株式会社　ホクエツ
長　　岡	鷲 尾　達 雄	2017.01.31	㈱鷲尾
柏　　崎	出 口　正 彦	2017.02.01	㈱東京エネシス原子力本部　新潟支社
高　　田	山 崎　公 一	2017.01.06	(株)NTT 東日本-関信越新潟営業部
高　　田	吉 原　耕 一	2017.01.13	(有)長養館

人類に
奉仕する
ロータリー

第2560地区 2016-17年度 1月末 会員数および出席報告

R C	例会数	出席率	会員数 7月1日現在	会員数 1月末会員数	会員数 うち女性	会員数 増減
第1分区(9クラブ)		83.96	371	369	35	−2
新発田	3	97.51	97	97	0	0
村上	4	85.72	36	36	8	0
水原	3	83.10	25	26	0	1
中条	3	89.81	35	36	3	1
新発田城南	3	81.82	40	39	4	−1
豊栄	4	79.62	27	27	3	0
新発田中央	4	77.37	48	47	5	−1
中条胎内	3	84.85	33	33	6	0
村上岩船	3	75.80	30	28	6	−2
第2分区(9クラブ)		81.52	440	454	20	14
新潟	4	85.72	92	99	0	7
新潟東	3	92.15	62	62	8	0
新潟南	3	84.94	97	102	2	5
佐渡	3	76.20	7	7	0	0
新潟西	4	88.56	37	40	1	3
佐渡南	4	82.32	42	42	4	0
新潟北	3	65.43	42	43	0	1
新潟中央	4	78.00	25	25	0	0
新潟万代	3	80.39	36	34	5	−2
第3分区(6クラブ)		75.56	131	127	8	−4
新津	3	74.08	19	18	0	−1
村松	4	88.41	10	11	0	1
五泉	3	69.24	18	17	3	−1
白根	3	75.83	42	42	3	0
新津中央	4	82.15	31	28	1	−3
阿賀野川ライン	3	63.63	11	11	1	0
第4分区(11クラブ)		77.02	362	369	22	7
三条	3	87.16	55	57	0	2
燕	4	67.54	33	33	1	0
加茂	3	89.29	28	28	4	0
三条南	2	90.43	51	48	2	−3
分水	4	68.75	32	33	3	1
見附	3	70.00	20	19	1	−1
吉田	2	76.50	32	34	2	2
三条北	4	81.44	65	66	3	1
巻	4	80.90	9	13	0	4
田上あじさい	4	65.20	6	7	1	1
三条東	3	70.00	31	31	5	0

R C	例会数	出席率	会員数 7月1日現在	会員数 1月末会員数	会員数 うち女性	会員数 増減
第5分区(7クラブ)		87.74	313	325	27	12
長岡	4	89.80	40	45	2	5
柏崎	3	82.98	42	47	0	5
長岡東	3	86.50	69	69	6	0
柏崎東	3	95.15	53	55	5	2
栃尾	3	90.18	21	21	0	0
長岡西	3	85.26	52	53	6	1
柏崎中央	3	84.29	36	35	8	−1
第6分区(6クラブ)		82.62	156	161	11	5
十日町	3	97.14	34	35	3	1
小千谷	4	73.48	40	40	3	0
雪国魚沼	3	75.00	24	27	4	3
十日町北	3	91.66	23	24	0	1
津南	3	86.42	27	27	1	0
越後魚沼	4	72.00	8	8	0	0
第7分区(8クラブ)		78.04	324	327	27	3
高田	4	97.65	61	66	0	5
直江津	4	70.19	51	50	3	−1
新井	3	74.84	32	32	3	0
糸魚川	2	65.11	42	43	3	1
高田東	3	78.63	40	39	2	−1
糸魚川中央	3	78.79	36	33	0	−3
頸北	3	89.70	15	15	1	0
越後春日山	3	69.39	47	49	15	2

クラブ数	56	クラブ
7月1日 会員数	2,097	人
1月末 会員数	2,132	人
女性会員数	150	人
純増減会員数	35	人
当月平均出席率	80.79	%

Rotary Zones 1 & 2 & 3

コーディネーター NEWS

2017年３月号

発行：Zones 1 & 2 & 3
ロータリーコーディネーター
ロータリー公共イメージコーデネータ
今月号の担当　Zone 1 RC/3 RC

■ 新クラブ設立

ロータリークラブ名　:相模原ニューシティロータリークラブ
地区　:第2780地区
スポンサークラブ名 :相模原ロータリークラブ
承認年月日　:2017年1月25日
日本での承認順位 :2397番目
創立会員数　:38名（男性36名 女性2名）
会長　:大隈 秀仁 様
幹事　:鈴木 高広 様
クラブ連絡先　:〒252-0239神奈川県相模原市中央区中央3-12-3
相模原商工会館5F（スポンサーの相模原RCと同じ）
TEL　:042-753-2020
例会日時＆例会場　:第1&3木曜日 19:00～20:00 にしもぐらホール

■

	クラブ数	会員数
Zone 1	829	28,694
Zone 2	653	28,153
Zone 3	791	32,931
合計	2,273	89,778

2017年2月12日現在の Rotary Club Centralのデーターによります。
第2ゾーンの数値には GUAM,MICRONESIA,NORTHERN MARIANAS, PALAUが含まれます。

■ BOX登録件数

184件（1. 2. 3ゾーン合計）

ロータリー：
変化をもたらす

■ BOXとはゾーン1.2.3の公共イメージコーディネーターの発案により開始された「クラウドBOX」の事です。クラブや地区が奉仕事業やロータリー活動の新聞記事を投稿して下さい。<rpicjapan@gmail.com>に「詳細希望」という件名で空メールをお送りいただくと投稿および、閲覧方法が自動返信で届きます。各クラブの奉仕活動の新聞記事を閲覧することができます。

■ 国際協議会で国際ロータリー会長エレクトの講演から

1月16日（月）、米国サンディエゴで開催されたロータリー国際協議会で国際ロータリー会長エレクト、イアン H.S. ライズリー氏（オーストラリア、サンドリンガム・ロータリークラブ所属）が講演し、2017-18年度の会長テーマ「ロータリー：変化をもたらす」を発表しました。

講演は国際ロータリー理事会がロータリー全体のために現在の戦略計画で定めた 3つの戦略的優先事項について以下のように述べられました。

・クラブのサポートと強化については
会員の大半が60歳以上であることにも触れ、若い世代の入会と参加を促す方法をクラブが模索する重要性を訴えました。「若い会員の入会促進に真剣に取り組まなければ、10年後、20年後にロータリーがどうなっているかを想像してみてください」と述べ、クラブ会員の男女のバランスを改善し、平均年齢を下げるよう求めました。

・人道的奉仕の重点化と増加については
ロータリーの6つの重点分野の不可欠な要素の一つが、「持続可能性」であるとして、ポリオ撲滅は、持続可能な奉仕の究極と言えます。その投資が世界的な規模で生み出す恩恵は、長期的であるだけでなく、恒久的であると述べました。

・ロータリー公共イメージと認知度の向上については
一貫したブランドを伝えることの重要性と、ロータリーのストーリーをより効果的に伝えられれば、ロータリー にふさわしい新会員の入会を増やすことができるでしょうし、ロータリーの奉仕でより大きな成果を上げるために協力するパートナー団体を増やすことができるでしょうと述べました。

これらの優先事項をすべてまとめると、一つの言葉になり、それは「持続可能性」です。持続可能性には、あらゆることを支えるもう一つの側面があり、それは、この地球の持続可能性です。持続可能な奉仕というロータリーの目標にとって、環境保護と温暖化抑止が極めて重要であると訴えました。

さらに、7月1日の新年度開始から2018年4月22日の「アースデイ」までの期間に、各クラブで会員数と同じ数の植樹をするよう呼びかけ、木を植えることで、空気中から二酸化炭素やそのほかの温室化ガスを除去し、地球温暖化のスピードを和らげる効果があると続けました。「この取り組みで120万本の新しい樹木が植えられ、環境への良い影響があるでしょうし、この取り組みを通じて、この地球に住む人だけでなく、地球そのものを救う責任がロータリーにはあると、私たちが気づくことです」と会長エレクトは訴えました。

（第1ゾーン　ロータリーコーディネーター　酒井正人　函館五稜郭RC）

ハイライトよねやま 203

2017 年 2 月 13 日発行
公益財団法人ロータリー米山記念奨学会

寄付金速報 ― 下期の寄付状況 ―

1 月までの寄付金は前年同期と比べて 5.6%減（普通寄付金 2.6%増、特別寄付金 9.8%減）、約 6,100 万円の減少となりました。前年度と比較すると減少額は大きいですが、累計金額としては直近 5 年間のほぼ平均額となります。

1 月は普通寄付金（クラブで決定した金額×会員数分でお送りいただく定期寄付）下期分の納入が主になります。今年度は 1 月末までに全クラブの 76%、1,718 クラブから納入いただきました。引き続きご協力賜りますようよろしくお願いいたします。

2017 学年度米山奨学生の選考を全地区で実施

2017 年 4 月採用の新規米山奨学生の面接選考が 12 月から 1 月末にかけて、全国 34 地区の各選考委員会によって行われました。指定校からの申込者 1,358 人のうち、学部・修士・博士課程奨学金と地区奨励奨学金を合わせた 586 人（枠）が合格予定です。現在まで報告を受けた合格者の出身国・地域は、中国、ベトナム、韓国、台湾、モンゴル、マレーシアなどが多くなっています。

今後、他の奨学金合格等による辞退・繰上げによって、人数と国籍の変動が見込まれます。このほか、現役奨学生の延長制度であるクラブ支援奨学金には 2 人が合格しました。海外からの個人直接応募制度の海外応募者対象奨学金、および、海外学友会推薦奨学金は現在選考中です。2017 学年度の奨学生数は、新規合格者と昨年度からの継続奨学生を合わせた 780 名（枠）となります。

副理事長就任のお知らせ

前副理事長、杉谷卓紀氏（玉名ＲＣ）のご逝去に伴い、当財団規程に基づき、役員候補者指名委員会で副理事長候補者を選任し、理事会にて承認されました。

2017 年 2 月 1 日付で、塙（はなわ） 東男（はるお）氏（第 2820 地区 笠間ＲＣ、現常務理事）が公益財団法人ロータリー米山記念奨学会 副理事長に就任しましたことをお知らせいたします。

貧困学校支援プロジェクトを実施 ― タイ米山学友会 ―

タイ米山学友会が 1 月 21 日、タイ国中部のスパンブリー県にあるワットブングカー学校を訪問し、「貧困学校支援プロジェクト」を実施しました。参加者は、タイ米山学友会の会員 12 人と、その家族・友人ら、合わせて 28 人。ワットブングカー学校からは、教職員 4 人と、児童 40 人が参加しました。

当日は、タイ学友会の会員をはじめ、企業や一般の方からの支援で集まった、現金や文房具、制服、スポーツ用品など、勉強と生活に必要なものが児童たちに提供されました。また、参加者は、児童たちと一緒にゲームをしたり、お菓子やアイスを食べたりして、交流を楽しみました。

タイ米山学友会幹事のワシン・テイシャシャイニランさんは、「勉強する環境に困ることなく、子どもたちの輝く未来を願っています」と、活動に参加した学友たちの思いを報告してくれました。

スリランカ米山学友会が第１回総会を開催

スリランカ米山学友会の第１回総会が１月７日、コロンボ郊外のマハラガマで開催され、ラクナース・ガマゲ会長（1993-95／宇部西ＲＣ）をはじめ学友７人が出席しました。

総会では１年間の活動報告のほか、今後の総会開催時期について検討がなされました。また、幹事長補佐をつとめるサマンタ・テリッジャゴダさん（2000-01／羽島ＲＣ）が、学生に向けたＩＴ関連セミナーを行うことが決まりました。これは、日本留学で得た知識をスリランカの若者へ伝えていきたいという、学友会としての活動提案です。このほか数人の学友が役員に任命されました。

ラクナース会長は、居住地が離れているなどの理由で学友が集まりにくい実情をふまえたうえで、「われわれの学友会の価値を高め、より魅力的な存在となるために、今いるメンバーのさらなる努力が必要だ」と訴え、「個人レベルではなく、学友会という組織だからこそできるような活動をやっていこう」と、熱心に呼び掛けました。

創立１周年を迎える今年６月には、記念式典を開くとのことです。

第 2620 地区学友会がスリランカの子どもに文具寄贈

第 2620 地区（静岡県・山梨県）米山学友会では、副会長のペレーラさんの提案で、彼の母国スリランカの子どもたちに文房具を寄贈する奉仕活動を企画。学友会会員のほか、ロータリークラブや個人などから合計 22 万円の寄付を集め、それを元に 129 人分の文房具セットと鍵盤ハーモニカなどの楽器、図書館の図書 908 冊を購入し、現地の小学校に寄贈しました。

１月 13 日にスリランカ北部エリヤーワ村の小学校で行われた贈呈式には、同学友会役員４人と学友会に関わりの深いロータリアン２人を合わせ計６人が出席。一行は、全校生徒と先生、多くの村民から温かな歓迎を受け、贈呈後、生徒たちからお礼の言葉と歌が贈られました。また、その前日夜には、スリランカ米山学友会のラクナース会長ら３人のメンバーが駆け付け、国を超えた学友会同士の交流も実現しました。

第 2620 地区米山学友会の篠原暁惠会長は、「今回、スリランカの地方では、子どもたちに必要な文具や図書がとても不足していることを知りました。参加した役員全員、機会があれば、この有意義な事業を続けたいと思っています」と語りました。

公益財団法人ロータリー米山記念奨学会
〒105-0011　東京都港区芝公園 2-6-15 黒龍芝公園ビル 3F
Tel：03-3434-8681　Fax：03-3578-8281
E-mail：highlight@rotary-yoneyama.or.jp
URL：http://www.rotary-yoneyama.or.jp/
編集担当：野津(のづ)・峯(みね)

米山梅吉記念館便り

シリーズ⑦米山梅吉の横顔

米山梅吉が社長を務めた三井信託株式会社は大正13年3月創業です。当時、信託は馴染みが薄かったのですが、信託業は預けた人のために預かったものを管理運営して利益を還元する奉仕（サービス）であるとお考えだったようです。

当時の思い出として後に信託の社長になられた林賢材さんは「信託会社は営利会社ではあるが、サービスを主眼とせねばならぬと度々諭された。後年三井報恩会の理事長として幾多の社会事業を育成されたことを思い、米山さんは社会事業家としても有数の方であった」と書かれています。三井信託での10年間を終え、66歳から三井報恩会の理事長に就任しました。

三井信託銀行社長当時、米山梅吉が使用していた机と椅子（三井信託銀行）
現在は米山記念館ロビーにあります。

春季例祭ご案内
平成29年4月22日（土）午後2時～　式典／講演会
米山梅吉記念館
登録料無料　アトラクションあります。
多くの皆様ご参加ください。

米山梅吉関連図書の紹介

Ｂ５判　記念館35周年記念誌
本文268ページ／2,500円

米山梅吉の跫音　記念館刊

米山梅吉の「生い立ちと人となり」「ロータリーとのかかわり」「記念館の歴史」などが詳細に解説されています。
資料編としては、米山梅吉の会議や大会での挨拶や講演、ロータリー月報やラジオ放送の内容なども掲載。記念館所蔵の図書目録、年表など網羅されています。

公益財団法人 **米山梅吉記念館**
〒411-0941 静岡県駿東郡長泉町上土狩346-1
TEL:055-986-2946 FAX:055-989-5101
URL http://yoneyama-umekichi.jp
Email:yumh@ai.tnc.ne.jp
［開館時間］午前10時～午後4時
［休館日］月曜日/12月28日～1月4日/整理のための休館日（5月･8月の特定日）

文庫通信（354号）

「ロータリー文庫」は日本ロータリー５０周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、約２万４千点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。また、一部資料はホームページでPDFもご利用いただけます。クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

忘れ得ぬロータリアン（３）

◎「ロータリーの黎明　ポール・ピー・ハリス」		宮脇 冨	1967	3p
◎「第1号ロータリークラブ誕生　シルベスター・シール」		宮脇 冨	1967	3p
◎「ロータリーと歌　ハリー・ラッグルス」		宮脇 冨	1967	3p
◎「ラッグルスの回顧録」		宮脇 冨	1967	3p
◎「冒険と挑戦　チェスリー R・ペリー」		宮脇 冨	1967	3p
◎「ロータリー定礎の三人」	塚本義隆編	大阪R. C	1979	42p
◎「献身的ロータリアン群像」		松本兼二郎	1979	8p
◎「我が自叙伝」	ハーバート J. テーラー著；菅野多利雄訳		1990	219p
◎「ロータリー財団の父　アーチ C. クランフの人となり」		鳴海淳郎	2000	9p
◎「奉仕理念の提唱者　アーサー・フレデリック・シェルドン」		田中 毅	2002	85p

〔上記申込先：ロータリー文庫〕

ロータリー文庫

〒105－0011 東京都港区芝公園 2-6-15 黒龍芝公園ビル３階　TEL（03）3433-6456・FAX（03）3459-7506
http://www.rotary-bunko.gr.jp　開館＝午前 10 時～午後 5 時　休館＝土・日・祝祭日